

LAST SNOW

SIAF2024

札幌国際芸術祭

SAPPORO INTERNATIONAL ART FESTIVAL

Usa Mosir un Askay utar Sapporo otta Uekarpa

札幌国際芸術祭2024

テーマは「LAST SNOW」

会期は2024年1月20日－2月25日に決定

札幌国際芸術祭は、3年に一度、札幌で世界の最新アート作品に出合える、特別なアートイベントです。

本芸術祭では、毎回テーマを設定し、そのテーマに呼応する作品やプログラムを選定・紹介しています。

このたび札幌国際芸術祭実行委員会(会長:秋元克広[札幌市長])は、小川秀明ディレクターと共に、2023年度冬季に開催する札幌国際芸術祭2024(Sapporo International Art Festival 2024 略称:SIAF2024)のテーマを決定しました。

SIAF2024のテーマは「LAST SNOW」です。小川ディレクターは、このテーマを問いとして投げかけながら、未来に向けた創造と行動を呼びかけていきます。

テーマとともに、サブテーマ、芸術祭会期、今年度のオープンプログラムおよび継続プログラムを発表しました。今年度の展開、そして2024年1月開幕の札幌国際芸術祭2024に、是非ご期待ください。

お問い合わせ

札幌国際芸術祭実行委員会事務局 担当:小林・佐藤

060-0001 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌時計台ビル10階

電話:011-211-2314(平日8:45～17:15) Fax:011-218-5154 E-mail:press@siaf.jp

SIAF2024ディレクター 小川秀明からのメッセージ

札幌国際芸術祭2024のテーマは「LAST SNOW」です。

2020年以降の世界的なパンデミック、ウクライナとロシアの紛争など、私たちは、絶え間ない危機の中で生きています。加速するテクノロジーの発展と、それによって急速に変容する社会。そして、地球規模の気候変動の影響は、私たちの生活をゆっくりと、しかし確実に変化させています。札幌では当たり前のように存在しているはずの「雪」の意味や、雪が作り出す風景も、21世紀末には現在とは異なるものになると予測されています。

この芸術祭では、そのような未来の地球、社会、コミュニティ、生活のための変革と創造に焦点を当てます。

雪とは何か。100年後の札幌はどのように変化しているのか。そして、アートと科学技術の混合は、どのような未来像を描くことができるのか。これからの地球と共生するために、どんな新しい考え方、教育、イノベーション、システム、アクションが必要なのか。未来の地球で、私たちはどのようなコミュニティを作り、そこに住む未来の「人類」とはどのようなものなのか。

「LAST SNOW」は、このような未来に向けた創造と行動を呼びかけるものです。私たちは、ただ未来がやってくるのを待ち、それを受け入れるだけなのか。それとも、これをラストチャンスととらえ、未来に向けて何かを始めることができるのか。

副題は「はじまりの雪」です。また、この芸術祭では、北の大地で独自の文化を築いてきたアイヌの言葉でも副題をつけています。雪を意味する「ウパシ」を語源に考えられた「ウパシテ」には「雪とともに未来に向けて走り出してみる、雪を通して互いに気づきあってみる」という今回のテーマに相応しいイメージを重ねています。

2024年、札幌国際芸術祭は、アートを通し、未来への問いと行動にあふれた「実験区」を札幌につくり、みなさんと一緒に「はじまりの雪」を体験したいと考えています。



小川秀明 略歴

2007年からオーストリア・リンツ市を拠点に活動。アートとテクノロジーの世界的文化機関として知られるアルスエレクトロニカにて、アーティスト、キュレーター、リサーチャーとして活躍。現在は、同機関の研究開発部門であるアルスエレクトロニカ・フューチャーラボの共同代表を務める。アートを触媒に、未来をプロトタイプ(試作)するイノベーションプロジェクトや、市民参加型コミュニティの創造、次世代の文化・教育プログラムの実践など、領域横断型の国際プロジェクトを数多く手掛けている。

ディレクターのメッセージ動画を6月10日11時から、SIAF公式ウェブサイトにて公開しています。
<https://siaf.jp/siaf2024/>



SIAF公式
ウェブサイト

札幌国際芸術祭2024 開催概要 (2022.6.10現在)

名称	札幌国際芸術祭2024 (日本語) Sapporo International Art Festival 2024 (英語) ウサ モシリ ウン アシカイ ウタヲ サッポロ オッタ ウエカラバ Usa Mosir un Askay utar Sapporo otta Uekarpa 2024 (アイヌ語)
略称	サイアフ SIAF2024
テーマ	ラスト スノー LAST SNOW
サブテーマ	はじまりの雪 (日本語) Where the Future Begins (英語) ウバシテ Upaste (アイヌ語) ※アイヌ語サブテーマ作成: マユンキキ (SIAF2020アイヌ文化コーディネーター) 公式ウェブサイト「Upaste」の解説を掲載しています。
会期	2024年1月20日(土)～2月25日(日) [37日間] ※一部の会場では、プレオープン期間を設けることを検討しています。
ディレクター	小川秀明 (アルスエレクトロニカ・フューチャーラボ共同代表/アーティスト)
主催	札幌国際芸術祭実行委員会/札幌市

現在予定されている今年度のプログラムの詳細については、別紙をご覧ください。

オープンプログラム

SIAF2024
ディレクターズトーク Vol.01
「Art for Future～アートを
通して未来を探る～」



夜に光を放つアルスエレクトロニカ・センター
© Ars Electronica / Robert Bauernhansl

SIAF2024の開幕に向けて、今年度よりさまざまなプログラムを実施します。

SIAF2024ディレクターの小川秀明が、アルスエレクトロニカの実践紹介を入口に、アート・サイエンス・テクノロジーの横断的な表現の世界、また、その関係性が持つ可能性について探求すると共に、発表になったばかりのSIAF2024テーマ・コンセプトについて語ります。

日時：2022年6月26日(日) 14:00～15:30
会場：札幌文化芸術交流センター SCARTS [SCARTSスタジオ1・2]
(札幌市中央区北1条西1丁目 札幌市民交流プラザ2F)
スピーカー：小川秀明(札幌国際芸術祭2024ディレクター)
参加費：無料(事前申込制(先着順)・定員50名)
お申込み：SIAF公式ウェブサイト(右記QRコード)



申込ページ

なお、イベント終了後に小川ディレクターの囲み取材の時間を設けます。
ご取材いただける場合は事前に下記まで連絡ください。

お問い合わせ先 札幌国際芸術祭実行委員会 担当：小林・佐藤
電話：011-211-2314(平日8:45～17:15) Fax：011-218-5154
E-mail：press@siaf.jp

ポッドキャストプログラム サイアフ ディレクターズ ラウンジ 「SIAF Director's Lounge」



秋元克広



松島倫明

小川ディレクターが毎回異なる分野のゲストを迎えて対談するポッドキャストプログラム(音声プログラム)をスタートします。多様なトピックを通して、SIAF2024のキーワードとなる「未来」について語り合います。

第1回 2022年6月15日(水) 配信スタート
ゲスト：秋元克広(札幌市長/札幌国際芸術祭実行委員会 会長)
第2回 2022年6月29日(水) 配信スタート
ゲスト：松島倫明(『WIRED』日本版編集長)

※以降、毎月1回程度の配信を予定しています。

SIAF Director's LoungeはSIAF公式ウェブサイトのほか、Spotify等の音声配信アプリでもお聴きいただけます。



SIAF公式
ウェブサイト

継続プログラム

SIAFふむふむシリーズ 2022



2021年度にスタートした「SIAFふむふむシリーズ」は、札幌市内の美術館・文化施設などとSIAFがタッグを組んで実施する、展覧会をもっと楽しむための新しい鑑賞プログラムです。今年度は、新たな会場や視点を取り込んだ下記の3プログラムを展開します。

- 1 札幌市青少年科学館×札幌国際芸術祭
「サイエンス実演オンラインプログラム」夏季実施予定
- 2 札幌芸術の森美術館×“視覚障害者とつくる美術鑑賞ワークショップ”×札幌国際芸術祭
「美術を耳から目から体験してみよう」夏季実施予定
- 3 「手話を通じたSIAFふむふむプログラム in 北海道立近代美術館」10月実施予定

※各プログラムの詳細が決まり次第、SIAF公式ウェブサイトでお知らせします。



SIAFふむふむ
シリーズ

SIAFラボ S.I.D.E.プロジェクト



《Island Eye Island Ear》1974年
クナーヴェルシア島でのウォック設置、チュードア
とクルーヴァーが横に並ぶ
画像提供：クルーヴァー／マーティン・アーカイブ

* E.A.T.について

E.A.T. (Experiments in Art and Technology) は、ベル研究所の技術者であったピリー・クルーヴァーを中心に1967年に設立された、アーティストとエンジニアによる実験的な共同制作をサポートする集団です。デーヴィッド・チュードアと中谷芙二子もE.A.T.関連のさまざまなプロジェクトに参加しました。日本におけるE.A.T.の代表的な活動として大阪万博1970年のペプシ館があります。

SIAFラボが北海道大学CoSTEPと共同で取り組む「S.I.D.E.プロジェクト」では、キュラトリアル・リサーチャーに明貫紘子を、アーティストリック・リサーチャーに中井悠を招き、音楽家のデーヴィッド・チュードアが発案し、E.A.T.*のサポートを得ながら中谷芙二子らと1970年代半ばから取り組んだ未完のコンサート計画《Island Eye Island Ear》をモチーフにした研究開発プロジェクト「Side Effects」を始動しました。その一環として、当時の実験記録をもとにチュードアが開発した「サウンド・ビーム」を考察しつつ、特定の地点に音を届ける超指向性パラメトリック・スピーカー技術を用いた音響システムをモエレ沼公園へ持ち込み、公開実験を行います。

日時：2022年8月21日(日) 時間未定

会場：モエレ沼公園 (札幌市東区モエレ沼公園1-1)

企画／運営：SIAFラボ、北海道大学CoSTEP、明貫紘子(キュレーター/映像ワークショップ合同会社代表)、中井悠(アーティスト/東京大学大学院総合文化研究科准教授)

協力：公益財団法人札幌市公園緑化協会

※詳細は後日SIAFラボウェブサイトでお知らせします。



Side Effects



SIAFラボ

また「S.I.D.E.プロジェクト」では、北海道大学CoSTEPに加え、札幌文化芸術交流センター SCARTSと連携して札幌を拠点とした活動の広がりを目指すとともに、萩原俊矢(Webデザイナー)と仲本拓史(映像作家/逗子アートフィルム代表)を新たにプロジェクトメンバーに迎え、プロジェクトの記録や関連資料の蓄積による多角的かつ国際的な情報共有を図ります。活動記録やリサーチ・プロセスといった最新情報をウェブサイトですぐ公開していきます。